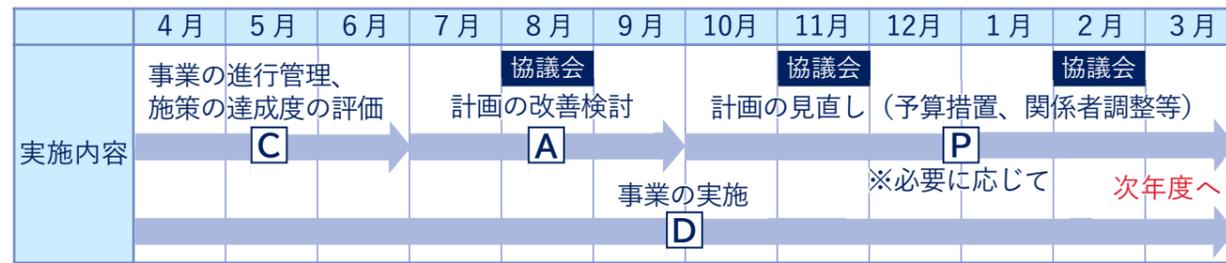
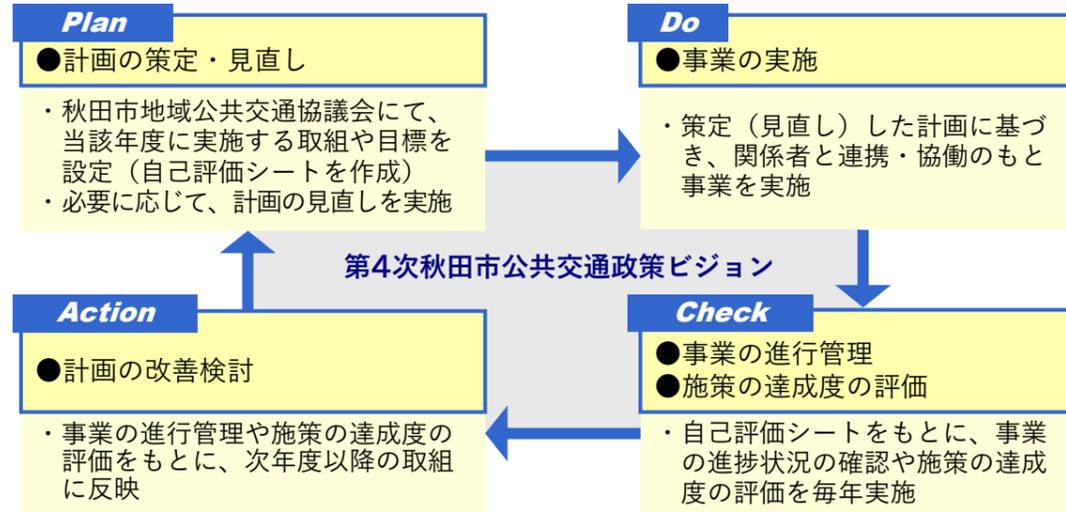


進捗評価と進行管理

本計画を策定(Plan)後、事業の実施(Do)、管理・評価(Check)、計画の改善(Action)の仕組みのもと、秋田市地域公共交通協議会において、各施策・事業の進捗状況と成果目標指標の達成度を毎年確認し、その結果に基づき必要に応じて改善を行います。



成果目標指標		指標値	
		現況値 (R6)	目標値 (R12)
目標1 バス	1 路線バス利用者数	5,815	5,943 千人/年
	2 マイタウン・バス利用者数	127	
	3 エリア交通利用者数	1.4	
	4 公共交通の人口カバー率	97.9%	現状より拡大
目標2 スマートフォン	5 市民による「バス、電車などの利用しやすさ」満足度	37.1%	42.0%
	6 路線バス運送収入	1,150百万円/年	1,200百万円/年
目標3 スピーチ	7 公共交通に関する協議会や事業に携わった機関・団体数	79団体/年	現状より増加
	8 路線バス運転士数	162人	現状より増加

本計画の本編については、右の二次元コード又は以下のURLからご覧いただけます。

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/kotsu/1007422/1047711/1047715.html>



発行：秋田市地域公共交通協議会
編集：秋田市地域公共交通協議会事務局（秋田市都市整備部交通政策課）
〒010-8560 秋田県秋田市山王一丁目1番1号
電話 018-888-5766

第4次秋田市公共交通政策ビジョン (秋田市地域公共交通計画)

概要版

令和8年3月 秋田市

計画の概要

本市では、人口減少・高齢化の進行や市街地の低密度化に対応するため、都心・中心市街地と6つの地域中心に居住を含む都市機能を誘導し、それらの地域間を骨格道路網や公共交通ネットワークで結ぶ「多核集約型コンパクトシティ」の実現を目指しています。

一方で、公共交通については、人口減少などの影響でバス利用者が大きく減少しており、運転士不足の影響も相まって、路線の減便が発生するなど、厳しい状況が続いています。

今後さらに高齢化が進む中、高齢者のみならず、子育て世帯や若年層など、多様な世代の移動ニーズに対応するため、限られた輸送資源を効率的に活用しながら、公共交通ネットワーク全体の最適化に向けて取組を推進すべく、このたび「第4次秋田市公共交通政策ビジョン」を策定しました。

本計画の対象区域は秋田市全域、計画期間は令和8年度から12年度までの5年間とします。

秋田市の公共交通に関する現状整理

本計画で目指す未来の姿を明確にするとともに、その実現に向けた基本的な方針と目標を設定するため、前計画の進捗評価や上位・関連計画、社会情勢や交通環境の変化、市民アンケート調査の結果などから、公共交通の現状を把握し、課題を整理しました。

社会情勢・交通環境の変化等

- 公共交通の担い手不足、働き方改革に伴う運転士の労働時間の制限による減便等が発生
- 少子高齢化の進行と高齢者事故の増加
 - ・運転免許返納者など、公共交通を必要とする層の市内全域での増加が見込まれる。
- 路線維持への要望が強い一方で、日常的に利用されない路線バス（市民アンケート調査より）
 - ・ほとんどの地域で、バス路線の維持への要望が強い。
 - ・秋田市全体で、約8割がバスを「ほとんど利用しない」と回答
- 公共交通網は市街地を概ねカバーするものの、利用者数は減少傾向
 - ・令和6年度の路線バス利用者数は、令和元年度に対し約18%減少
 - ・市街地における地域内移動の手段として、令和4年度からエリア交通の実証運行を開始
- 市街地が拡大しそれらを網羅する幹線道路整備も着々と進展したものの、人口減少社会を迎え、市街地の低密度化が進行 など

公共交通の課題

- 限られた輸送資源（ヒト・モノ）を効率的に活用できる運行サービスへの見直し
- 高齢者をはじめとした、あらゆる世代が利用しやすい移動手段の確保
- まちづくりと連動し、多核集約型コンパクトシティの形成を促進する交通環境の整備
- 地域の実情や利用者ニーズを考慮した適切な交通施策の実施による利便性向上
- 公共交通利用者の確保・維持に向けた取組の推進
- 人流を踏まえた公共交通サービスの提供
- 市民生活を支えるセーフティネットとして、公共交通ネットワーク全体の見直しによる、将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現 など

秋田市が目指す未来の姿と基本的な方針・目標

本計画では、公共交通の課題を踏まえた未来の姿として、3環状放射型道路網と公共交通による基幹的な地域連携軸のもと、都心・中心市街地と各地域中心を結ぶ多核集約型コンパクトシティの形成を目指します。

また、未来の姿を実現するための基本的な方針を示すとともに、同方針のもと3つの目標を設定し、各目標の達成に向けた取組の視点を整理しました。



実現を目指す公共交通の利用環境



鉄道・バス・タクシーによる乗換を前提とした公共交通ネットワークへの再構築を目指します。

基本的な方針 多様な交通モードの連携・協働による、将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現 ※第4次秋田市総合交通戦略の目標II

目標1 多核集約型コンパクトシティを形成する公共交通ネットワークの整備

- 利便性向上や効率化に向けた検討を継続するとともに、乗換を前提とした公共交通ネットワークへの再構築を目指します。
- 地域内移動を担い、路線バスや鉄道にもアクセスできるよう、タクシー車両等の小型車を活用した生活交通を確保します。
- 乗換の負担を軽減するため、待合施設や運行情報提供等の環境整備を検討するとともに、乗換しやすいダイヤ調整を実施します。

目標2 利用しやすい公共交通サービスの提供に向けた取組の推進

- バスロケーションシステムによるリアルタイム運行状況の提供継続等、運行情報提供の充実を図ります。
- バス停等の適切な維持管理を図るとともに、誰もが利用しやすいバス利用環境の改善を図ります。
- 定額運賃等わかりやすい料金制度や乗換時の負担を減らすための乗換割引の導入を検討します。

目標3 持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進

- 地域公共交通を「乗って守る」という市民の意識醸成を図るとともに、運賃の助成などにより多様な世代の利用促進に努めます。
- 自治体、事業者、地域住民等、多様な関係者が連携・協働しながら、限られた輸送資源を活用した新たな交通手段等の導入について検討するなど、持続可能な公共交通の確保に努めます。
- 地域公共交通の維持などの取組に対する支援制度を実施します。

目標を達成するために行う事業

番号	事業名	R					以降
		8	9	10	11	12	
目標1	1 鉄道・バス・タクシーによる乗換を前提とした公共交通ネットワークへの再構築						
	2 多頻度運行による幹線バス路線の利便性向上						
	3 利用ニーズを踏まえた安定運行の継続 (マイタウン・バス)						
	4 タクシー車両等の小型車の活用など、効率的な運行形態の導入 (マイタウン・バス)						
	5 運行ルートの見直しやバス無料デーの実施等による利用促進と利便性向上 (ぐるる)						
	6 エリア交通の運行による地域内移動の確保						
	7 乗換拠点となる鉄道駅やバス停における待合環境の整備						
	8 公共、民間施設等のスペースを活用した乗換拠点の整備検討						
	9 多様な交通モードに対応したモビリティハブの整備検討						
	10 バス相互やバスと鉄道などの乗換をスムーズにする事業者間のダイヤ調整						
目標2	11 バスロケーションシステムによるリアルタイム運行状況の提供						
	12 多様な交通モード間における複合経路検索が可能な乗換案内サービスの導入検討						
	13 安全性向上のためのバス停の設置環境の改善						
	14 マイタウン・バスにおける定額運賃やゾーン制運賃等、わかりやすい運賃の導入検討						
	15 ICカードを活用した乗換割引の導入検討						
目標3	16 市の広報や市民向け講演会による公共交通等利用の意識醸成						
	17 「高齢者コインバス事業」や「福祉特別乗車証」の助成による高齢者や障がい者の利用促進						
	18 運賃の助成等、若年層の利用促進策の検討						
	19 公共ライドシェア (事業者協力型) や上下分離方式等による公設民営化の検討						
	20 運転士不足等に対応する自動運転移動サービスの導入検討						
	21 貨客混載A I オンデマンド交通の導入検討						
	22 スクールバス等、地域の輸送資源の活用検討						
	23 連携協定に基づく持続可能な公共交通サービスの実現に向けた取組の推進						
	24 バス路線維持に係る支援						
	25 運転士等担い手確保に係る支援						